

特集 学生の研究活動報告—国内学会大会・国際会議参加記 27

グローバル人材育成プログラム に参加して

で構成されている。現在、2店目をストーンズタウン・ガレリアに出店予定である。

水谷 葵
Aoi MIZUTANI
物質化学科 3年

1. はじめに

私は、8月17日から9月3日までの約3週間にアメリカのカリフォルニア州サンフランシスコにおいてグローバル人材育成プログラムに参加した。

私がこのプログラムに参加した目的は、2つある。1つ目は、日本と海外での言語・文化・生活・働き方の違いを比較することである。比較をすることで、グローバルな人材とは何かを、自分なりに考えだすために設定した。2つ目は、英語の苦手意識の克服である。苦手なことに挑戦することで、成長することが出来たらと思い設定した。

2. 講演会

現地で起業家・ビジネスマンとして、ご活躍されている日本人の山田様、黒田様、北村様の講演会に参加した。この講演会では、日本の企業とアメリカの企業の違いや、なぜ日本ではなく、この地で働こうと思ったのかについてお話を聞いた。その後、グループごとに別れて食事をしながらディスカッションを行った。どの方も私たちの質問や相談に親身に答えてくださった。1つ1つの言葉が刺激的で、私には何ができるのか、何がしたいのかについて考えさせられた。貴重なお時間を過ごさせてもらった。

3. インターンシップ

3.1 企業概要

CANDY DOLL BEAUTY は化粧品販売ショップである。アメリカ、カリフォルニア州、サンフランシスコのジャパンセンター内に位置する。2006年に創業。日本と韓国の化粧品を4,000品以上取り扱っている。従業員の年齢層は若く、中国人と台湾人

3.2 実習内容と実習を終えて

接客を主とし、掃除、レジ打ち、品出し、ストックを行った。その前に商品の説明をうけ、それをもとに接客を行った。

1週間は、お互い何を言っているのか理解できなかった。しかし、2週間目になるとほとんどのお客様のご要望を聞き取ることができた。そこにいたるまでには、私の努力だけではなかった。他の従業員が、お客様のご要望を理解できなかった時に、サポートに入ってくださったり、接客をすぐ隣で見学させてもらい、後でお客様のご要望の説明をわかりやすくしてくださったりと私のために多くの指導をしてくださった。他にも、商品の効用について知るために、テスターを家に持って帰ることを許可してくださったことや、困っていることはないかと気にかけてくださったため、とても充実して英語を学びながら働くことが出来た。また、従業員の方が気軽に話かけてくださったので、私も積極的に話しかけることができ、毎日楽しく働くことが出来た。

最後の日に、マネージャーが「手伝ってくれて、ありがとう。」と何度も言うてくださった。ミスもしたし、コミュニケーションがとれなくてお互い苦勞した時もあったが、沢山助けてもらった分、少しでも従業員の方々の役に立つことができてよかった



図1 実習先での集合写真

と思った。

4. 日本とアメリカの比較

この3週間で様々な比較がみられた。4つの観点から比較した。1つ目は、言語である。多文化共生の国ということもあって、2か国語以上を話せる方が多いように思えた。また、英語には敬語が日本ほどないことから上下関係の緩さが伺えた。実際に、実習先は上下関係なく、従業員全員がお互いを呼び捨てで呼んでいた。日本では、普通ではないことだと感じた。2つ目は、文化である。多文化共生が目に見える国であった。様々な国の方が、お互いの国を理解しながら共存していると感じた。それを一番実感したのは、ショッピングモールの案内板である。6か国語で表示してあったのが印象的であった。3つ目は、生活である。ホームステイをしてみて、水不足ということもあり節水をととても心掛けた。他にも、靴を履きっぱなしの生活がなかなか慣れなかった。4つ目は、働き方である。実習先で感じたことになるが、従業員全員が仲良く、コミュニケーションを良くとっていると感じた。それゆえ、仕事を楽んでいる姿がとても印象的であった。

以上より、日本とアメリカでは、ほとんどが根本から違うと感じた。だから、日本にアメリカの真似をしてほしいとも思わない、その逆も思わない。それらの中間が一番いいと思った。けれども、日本が多文化共生の国になったらいいなとは思った。そしたら、他国の文化から日本人の考え方に良い影響をもたらすのではないかと思った。

5. おわりに

今回3週間にかけて、貴重な経験を多くさせても

らった。英語が苦手な私が、英語を話すことでしか自己表現できない環境で働き、生活することが出来た。それは、周りの方が助けてくださったおかげである。私が、アメリカで働くということなど、少し前までの私なら想像もつかなかったと思う。いざ、この地で働いてみると、海外で働くという人生設計も面白いと思った。流暢に英語を話すことができなくても、何かを相手から必要とされる個性があれば、仕事もでき、生活できると思った。ただ、英語力をあげておけば、将来の選択肢が広がるのではないかと思った。このまま英語力向上のために、TOEICなどに取り組むことを決めた。

この経験を経て、グローバルな人材とは何だろうと考えた。私が思うグローバルな人材とは、「協調性を持ち、環境が変わっても、自分の個性を最大限に生かすことのできる人だ。」と思った。今までの私は、ほかの人と同じところを見つけては、同じという状況に安堵していた。だが、同じであれば人を選ぶという場面で、どちらでもよくなってしまふ。それでは、いけない。私でなければならぬという材料をもっていなければ、選ばれないと思った。私にしかできないこと、他の人と違うことは何かを自覚することができたときに、自分を魅力的な人間へと変えることができるのではないかと思った。すると、意見や考えも他の人とは違うものになるのではないかと思う。そんな私になるために、私自身を見つめなおし、自己分析をしなければならぬと感じた。このプログラムを通過点として、将来に向けてできることを全力で取り組みたいと思った。

そして、この3週間を充実にご過ごせるようにと協力してくださった方々、助けてくださった方々に心よりお礼申し上げます。